

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東淡路小学校協議会

## 1. 総括についての評価

学校は、「強く 正しく 朗らかに」の校訓のもと、めざす子ども像「健康や体力の向上を図り、たくましく生きる子」「自ら学び、考え、主体的に判断し、行動する子」「自らを律し、思いやりの心もち、協調する子明るく前向きに学ぶ子」を育てるために、学校教育目標『「つよく・たくましく・ほがらかに」生きる子どもを育てる ～「健康・体力」「確かな学力」「豊かな人間性」～』をかせ、教職員一同全力で取り組んでいる。

本協議会は、この事を踏まえ、学校の自己評価や評価資料を検討し、本協議会としての学校評価を行った。昨年度に引き続き学校は、集めたデータを分析し、過年度との比較を行い、学校改善に向けたPDCAサイクルを実践している。

本年度の学校の自己評価結果にあげられた次年度への改善点を踏まえ、学校はもちろん保護者や地域、ならびに関係諸機関が一丸となって、今後の学校改善に協力し続けていただく事を期待する。

## 2. 年度目標ごとの評価

### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は81.5%で、90%以上に届かず目標未達。

○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な「思う」と回答する児童の割合は前年度（96.6%）以上（96.9%）となり目標達成。

**評価** 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくない。日々の声掛けやアンケート実施、そしてその結果を引き続き生活指導に生かしていただき、次年度以降の改善に期待する。目標達成している項目については、引き続きの取り組みをお願いします。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比の、同一母集団において経年的な比較は、4・5年生で上回ったものの、6年生は昨年度と同じ結果で目標未達。

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比の、同一母集団において経年的な比較は、4年生で上回ったものの、5・6年生で昨年度より下回ったので目標未達。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度（69.0%）より減少（61.6%）し、目標未達。

**評価** 目標に届かない項目もあったが、目標値との差は大きくない。小学校学力経年調査については結果を分析し、全体的に弱いところは振り返りプリントなどを使って伸ばしていただ

きたい。また、運動面については校内工事中ということもあり運動場の使用が限られるが、児童会活動や委員会活動を通した工夫を取り入れることで改善を図っていただきたい。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数は、今現在年間授業日の36.2%で、50%以上に届かず目標未達の見込み。

○第2期「学校における働き方改革推進プラン」に掲げた、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を前年度(89.3%)以上(96.15%)となり目標達成の見込み。

○年度末の学校アンケート(保護者対象)で、「学校は、教室や運動場などの環境を整備するよう努めている」への肯定的な回答は91.0%で、90%以上となり目標達成。

**評価** 目標に届かない項目もあった。学習者用端末の活用に関しては、年度の後半部分は50%を超えるようになってきているので、次年度以降目標を超えるよう取り組んでいただきたい。超過勤務時間の削減、環境の整備に関しては、目標達成しているので引き続きの取り組みをお願いする。

#### 3. 今後の学校運営についての意見

学校は子どもたちのためにさまざまな取り組みをされ、一定の成果を上げている。今年度スタートした図画工作科の研究においても、話し合い活動の様子が見られており、一定の研究成果が表れている。

また、全国学力・学習状況調査や大阪市小学校学力経年調査の結果が、大阪市平均や全国平均を上回る正答率を得るところもあり、日々の取り組みを通しての学力向上が数値として表れていると言える。

来年度は、目標未達の年度目標はもちろん、目標達成している年度目標に関しても、さらなる向上を目指していただきたい。また、次期大阪市教育振興基本計画においても、中期目標達成に向けて取組内容や指標を改めて検討していただき、いっそう創意工夫ある教育活動の展開を期待する。